

めいか

令和6年10月31日
文京区立明化幼稚園

様々な人との関わりで得られるもの

園長 西郡 千晴

子どもたちの登園風景が冬の園帽子に代わりましたが、気候は不安定で服装は半袖で過ごすことができる日と上着が必要な日と交互に見られるこの頃です。幼稚園は空調管理がされており、園内は快適な環境設定となっております。しかしながら、心地よい風が吹く日には窓を開けて新鮮な空気を取り入れたいと思うもので、園長室の窓は日によって忙しく開閉しています。

さて、幼稚園で過ごす子どもたちは、日々の生活の中で様々な人と関わる機会を経験しています。計画的に教育内容に組み込まれている明化小学校や第十中学校の3年生との交流、コーディネーショントレーニング、実習生など外部の人との関わりがあります。いずれの活動も、優しく関わってくれる人に信頼感をもって安心して身を委ね、伸び伸びと活動をする姿がありました。



中学生のお膝取りゲーム
優しい中学生が、膝に乗せてくれました。

それに加えて、日常的に行われている幼児同士の学年を越えた交流があります。明化幼稚園では当たり前に見られる光景なのですが、教職員同士の連携によっては、難しくなることもあります。先月は、運動会で年長組が見せてくれたパラバルーンを年中、年長と一緒に遊びました。その機会が何回かありましたが、リードは年中年長どちらの担任も行っていました。リーダーが変わると、その教師の持ち味によって面白さが変化します。幼児は、毎日一緒に過ごす担任の声や話し方等慣れ親しんだ関係の中で、安心して自分らしさを発揮することができます。次第にその安心できる関係は、副園長、園長、支援員、預かり職員、看護師、主事、事務職員に広がっていきます。幼児教育において様々な人との関わりは、子どもの社会性を育てる上で重要な役割を担っています。教師は、学級の枠を越えた関わりの中でも教育的な視点で幼児と関わります。教師以外の職員は、愛情いっぱい



年中、年長と一緒にバルーン
今日は、年中の先生の合図に合わせてメリーゴーランドです。

に優しい関わりをしてくれます。自分のことを大切に思ってくれる大人に見守られて過ごせる環境だからこそ、自分の思いを遠慮なくさらけ出してくれるのだと思います。

これからも教職員一同、明るい言葉掛けを意識して共感的に応答し、温かな関わりの中で、幼児が安心して過ごせる環境となるように努めて参ります。